

## あとがき

第四帖の注釈をお届けする。二〇一二年三月に、お茶の水女子大学附属図書館の E-book サービスにより、WEBに掲載した第一帖、同じく二〇一四年七月に掲載した第二帖、二〇一六年七月に掲載した第三帖に続くものである。底本、凡例などに変更はない。

第四帖の注釈には、今までにない困難があった。本文に傍記が多い。これまでの第一帖から第三帖までの本文にも傍記はあったが、これほど多くはなかった。傍記はその位置の正確さを旨として翻刻したが、以下のことをお断りしておく。この全注釈では和歌は一行書きだが、底本は和歌二行書きであって、その右にはもちろん、左にも傍記があり、二行の間にも書き入れがある場合がある。細かく位置を説明することはせず、「何々ハ和歌二行書キノ文末ニ小字補入」という表現にそろえた。底本の永青文庫本は影印本が刊行されていて、詳細は読者が確かめられると考え、説明の簡潔を優先した。

また、最近、第一帖から第四帖までを収める室城秀之著「古今和歌六帖（上）」（和歌文学大系45 平成三十年五月 明治書院）が刊行された。第四帖を参照した。

メンバーは担当の順に

諸井彩子・山村英理子・吉田優子・長戸千恵子・久保木哲夫・平野由紀子・加藤静子・

原山絵美子・\*山下道代・中野方子・尾高直子・河本明子・林マリヤ

である（\*は退会者）。

輪読会は今年で二十年を迎え、会員も変化した。昨年十月に、発足当初からの会員であった山下道代さんが、第四帖の完成を待たず、永眠された。清書原稿が集められると、五人が通読して前後に齟齬がないか、説明がわかりにくいかなどチェックし、各自の再考の機会とするのだが、常に最も丁寧かつ詳細に書かれたコメントは山下さんのものであった。

意見を受け入れるかどうかは原則、その担当者であるの言うまでもない。年齢の上下に関係なく自由な討議のできる空間が輪読会の場なのであり、山下さんの声とあの文字は、会員の記憶から消えることはない。

二〇一九年九月九日

平野由紀子

古今和歌六帖全注釈 第四帖

---

2019年 11月 11日 初版発行

著 者 古今和歌六帖輪読会

発 行 お茶の水女子大学附属図書館(E-book サービス)

〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1

<https://www.lib.ocha.ac.jp/>

電話 03-5978-5835 FAX 03-5978-5849

**ISBN 978-4-904793-26-8 C3092**

本著作の著作権は著者が保持しています。著作権法上の著作権の制限を超える利用については、お茶の水女子大学附属図書館にお問い合わせください。